

千葉教育

梅

令和4年度
No.677

千葉の子どもたちの未来のために

特集

個別最適な学びと協働的な学びの実現

○シリーズ 現代の教育事情
國學院大學人間開発学部初等教育学科教授 田村 学
県教育庁教育振興部学習指導課

○提 言
レモネードスタンド普及協会



千葉県総合教育センター

- ◆学校自慢 フィールドワークで郷土愛を 鋸南町立鋸南中学校校長 酒井 純
 ◆提言 レモネードスタンド普及協会の活動と小児がん・治療の現状について レモネードスタンド普及協会…2
 シリーズ 現代の教育事情 個別最適な学びと協働的な学びの実現

- 令和の日本型学校教育における個別最適な学びと協働的な学び
 國學院大學人間開発学部初等教育学科教授 田村 学…4
 ■「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に向けて 県教育庁教育振興部学習指導課…8

私の実践

- 学校を創る 上機嫌で行こう 富津市立青堀小学校校長 山下秋一郎…10
 ■学校を支える 「背中で支える」 市川市立大柏小学校教頭 進藤 憲一…12
 ■学校を動かす チーム学校の変革期を迎えて 茂原市立茂原小学校教諭 篠田 淳志…14
 ■学校を知る 子供たちのために 香取市立北佐原小学校教諭 立原 愛美…15
 ■学校を知る 学校職員の一人として 船橋市立三山中学校栄養教諭 小林 葵…15
 ■授業を創る 探究的な学びを育む教師の手立てと見取りー総合的な学習の時間を通してー 流山市立八木南小学校教諭 菅沼得理香…16
 ■授業を創る 各教科等を合わせた指導の指導計画～おたすけツールの活用を通してー 君津市立上総小櫃中学校教諭 小幡 愛子…18

活・研究

- 令和3年度長期研修生の研究の紹介 令和3年度長期研修生…20

ケーススタディ～Change the world～

- 「やってはいけない」では「やってはいけない」時代の情報モラル教育 NPO法人企業教育研究会 市野 敬介…24
 ■令和4年度調査研究事業「ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究
 ～1人1台端末の活用を通して～」について 県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当…25

幼児教育の今

- 夢中になって遊びこむ子どもを目指して 東庄町立こじゅりんこども園園長 関口喜代美…26

受講者・読者の声

- 登下校の交通マナー向上のために 柏市立田中小学校教諭 小瀧 悠子…27
 ■分からないことだらけの毎日から 習志野市立東習志野小学校教諭 中台 千尋…27

情報アラカルト

- 「令和4年度 全国学力・学習状況調査」結果の活用について 県総合教育センター学力調査部…28
 ■センター研究発表会の案内 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当…29
 ■体力低下・緊急事態宣言 県教育庁教育振興部保健体育課…30

チーム学校の仲間たち

- ことばの教室（言語通級指導教室）の概要 大網白里市立増穂北小学校教諭 松本 京子…32

学校 NOW！

- 我が校の実践 系統的かつ教科横断的な環境学習の実践 SDGs No14「海の豊かさを守ろう」の課題を通して 芝山町立芝山中学校教諭 森 孝行…34
 ■学校歳時記 小中一貫教育のこれまで、そして、これから 千葉大学名誉教授 天笠 茂…36
 ◆発信！特別支援教育 ライフサポートファイルを活用した地域の関係機関との連携の在り方
 ～乳幼児から学校卒業後までを通じて一貫した教育的支援を行うために～ 県立長生特別支援学校…38
 ◆千葉歴史の散歩道 身近な遺跡を歩いて、動画に触れてー東金市道庭遺跡ー 県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 行木 絢子

道 標

令和3年1月の中央教育審議会（以下、中教審）答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。この中で、子供の学びにおいては、ICTを有効に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要であるとしている。これらについては、本誌の令和

2年度と3年度の「学校歳時記」コーナーの中で、天笠茂氏が丁寧に解説してくださっているので、記憶にある方が多いであろう。令和4年4月から高等学校においても新学習指導要領が年次進行で実施されることとなり、幼稚園から高等学校、特別支援学校までの全ての学校種において、新しい教育課程による学びが始まった。本号では、個別最適な学びと協働的な学びをキーワードに、令和の日本型学校教育の実現を目指す取組について取り上げる。教師自らの実践を振り返り、今後の在り方について考える機会となれば幸いである。